

大口養魚場

I 事業の経過報告

43年度以降の親魚養成、淘汰、その他色々な関連試験についても順調な成果をおさめることができた。創設以来ニジマス卵は長野、静岡、滋賀各県の移入卵を主体とした種苗生産であった。同時に内面的には鹿児島県産の種苗を作るべく、親魚養成、淘汰およびその他色々な連繫をもった試験等を行い、懸念された難関も突破し、かなり改良された種苗生産が漸く結実し、愈々46年度を目処に自給自足体勢の一本立ちが実現し、既存業者に対する供給率もほぼ完配できる確信を得たが、しかし生産物へ市場消化能力等を加味しながら差し当りは85%生産計画を企画し常に消費と生産の均衡を保ちながら市場開拓への意欲を燃しつづけたい。なお特に在来マスのヤマメ飼育試験および河川上流水域への放流試験を県下七市町管内に重点をしぼって実施し、後日追跡試験を行い、その結果を待って種苗生産体制の強化を図ってゆきたい。さらに45年10月には出水市管内の広瀬川上流域に棲息する在来ヤマメの親魚採捕、および稚魚の計画生産の実施および現地での採卵、ふ化の確認と、他魚から食害されない程度の簡易な保護対策を行いつつ放流の助長を図り、河川上流水域開発への一歩前進の手を差しのべたい。

Ⅱ 増 殖 事 業

1 ニジマス

1～1 稚魚の配布

前年度より繰越したニジマス稚魚から651,870尾を県内養鱒業者へ配布した。その配布先は表1でしめした。

表 1

氏 名	供給数(尾)	氏 名	供給数(尾)
石原敏秀	62,000	江夏梓	20,000
打越直熊	10,000	下小菌清己	30,000
相沢昭人	5,000	川南文雄	15,000
南田香	5,000	梅山実	15,000
森満政一	5,000	宮脇哲雄	5,000
上松瀬一男	9,000	田原迫徳一	5,000
岩切哲三郎	10,000	愛甲博保	10,000
牧之瀬益夫	10,000	桑田悟	6,000
池田隆	104,000	永野勇	5,000
富永良文	15,000	桑波田孝二	7,000
竹中次男	11,300	迫田哲郎	10,000
竹中司	7,000	内水面分場	15,000
田代新一	10,000	岩間邦之(熊本県)	10,000
徳留恒男	20,000	東繁喜(")	30,000
池田穂積	89,000	住友林業(")	9,000
大茂盛蔵	43,500	その他	30,070
新沢栄男	25,000	計	651,870

1～2 ニジマス食用の払い下げ

食用として 7,489.5kg を払い下げた。

1～3 ニジマス親魚養成および採卵、ふ化

約800尾の1年魚、多年魚(2年魚以上)、アルビノのニジマス親魚によって、2,326,700粒の自家採卵を行った。静岡県富士養鱒場より100万粒の発眼卵を購入した。その結果2,675,600尾のふ化稚魚を得た。表2.3.4.で採卵、ふ化記録をしめした。

表 2

産 地	採 卵 数	発 眼 卵 数	ふ 化 尾 数
大口養魚場	2,326,700 ^粒	1,765,600 ^粒	1,708,600 ^尾
富士養鱒場		1,000,000	967,000
計		2,765,600	2,675,600

表 3 大口養業場産ニジマス採卵，ふ化記録

回数	採卵年月日	年令種類	尾数	採卵数	1尾平均卵数	発眼卵数	発眼率	ふ化尾数	ふ化率
1	44.11.27	1年魚	5尾	10,200粒	2,038粒	8,100粒	79.4%	7,500尾	92.6%
2	44.12. 2	1	15	39,900	2,657	22,500	56.4	21,000	93.3
3	44.12. 9	1	49	106,000	2,200	72,000	67.9	70,000	97.2
	"	多	6	23,500	4,706	20,000	85.1	19,400	97.0
4	44.12.16	1	54	122,000	2,250	101,000	82.8	99,000	98.0
	"	多	22	97,000	4,414	76,000	78.4	74,000	97.4
5	44.12.23	1	不明	126,000	不明	102,000	89.95	100,000	98.0
	"	多	14	55,000	3,917	47,000	85.45	46,000	97.9
6	44.12.28	1	36	92,000	2,563	60,000	65.2	58,000	96.7
	"	多	8	26,800	3,348	20,800	77.6	20,100	96.6
7	45. 1. 5	1	78	179,000	2,296	142,000	79.3	137,000	96.5
	"	多	15	55,700	3,715	48,800	87.6	48,400	99.2
	"	多 (カビ)	7	18,700	2,668	15,100	80.8	6,100	40.4
8	45. 1.10	1	35	83,100	2,374	75,500	90.9	74,700	98.9
	"	多	11	36,000	3,277	27,800	77.2	27,300	98.2
9	45. 1.17	1	32	76,700	2,398	61,100	79.7	59,900	98.0
	"	多	26	93,200	3,586	104,000	74.0	102,000	98.1
	"	1多 (カビ)	12	47,300	3,945				
10	45. 1.23	1	33	80,400	2,435	63,000	78.4	61,000	96.8
	"	多	17	55,700	3,274	55,500	77.5	53,700	96.8
	"	多 (カビ)	5	15,900	3,185				
11	45. 1.30	1	32	75,600	2,361	52,700	69.7	51,900	98.5
	"	多	18	56,300	3,129	46,600	82.8	45,900	98.5
	"	1多 (カビ)	9	23,700	2,632	16,300	68.8	15,800	96.9
12	45. 2. 6	1	22	57,300	2,605	42,400	74.0	34,800	82.1
	"	多	31	106,000	3,423	87,400	82.5	85,100	97.4
	"	1多 (カビ)	10	30,800	3,084	25,100	81.5	24,300	96.8
13	45. 2.13	1	8	25,300	3,161	14,800	58.5	14,200	96.0
	"	1多 (一部はカビ)	33	95,200	2,884	65,700	69.0	64,600	98.3
14	45. 2.20	1多 (一部はカビ)	35	131,000	3,734	83,700	63.9	82,100	98.1
15	45. 2.27	1多	28	94,400	3,371	67,800	71.8	66,200	97.6
	"	1多 (カビ)	8	32,100	4,013	22,300	69.5	22,000	98.7
16	45. 3. 6	1多 (一部はカビ)	28	85,200	3,042	69,200	81.2	68,500	99.0
17	45. 3.13	1多	14	45,100	3,224	32,500	72.1	31,500	96.9
18	45. 3.20	1多 (一部はカビ)	7	28,600	4,083	16,900	59.1	16,600	98.2
計			763 +不明	2,326,700		1,765,600	75.9	1,708,600	96.8

表 4 富士養鱒場産，ふ化記録

回数	採卵年月日	購入発眼卵数 粒	ふ化尾数 尾	ふ化率 %
1	44.11.4	500.000	483.000	96.6
2	44.12.22.	500.000	484.000	96.8
計		1.000.000	967.000	96.7

2 ヤマメ

ヤマメ親魚（0年魚）626尾より採卵を行ない，220.116粒を得た。東京都水試
奥多摩分場よりヤマメ発眼卵10.464粒を分譲してもらった。その結果約78.000尾
のふ化稚魚を得た。採卵，ふ化記録を表5，表6で示す。

表 5 ヤマメ採卵，ふ化（大口養魚場産）

採卵回数	採卵年月日	親魚数	採卵数	一尾平均卵数	発眼卵数	発眼率	ふ化尾数	ふ化率
14	44.10.21 44.11.28	623	220.116	352	78.878	35.8	69.997	88.7

表 6 ヤマメふ化（奥多摩分場産）

採卵月日	購入発眼卵数	ふ化尾数	ふ化率
44.12.22	10.464	8.205	78.4

3 ゴイ

稚ゴイ1.500尾，中羽ゴイ1.1kgを払い下げた。

4 アユ

食用アユとして4.5kgを払い下げた。また4.0kgは試験に使用した。

Ⅲ 増殖試験（概要）

1 ニジマス増殖研究

大口養魚場の環境でのニジマス種苗生産の問題を整理し、つねに安定したよい種苗を容易につくり出すために、親魚養成、採卵とふ化、稚魚養成に関して、整理し、試験している。

1-1 親魚養成

親魚餌料と給餌量を少し改良することにより、平均レベルの1尾3,000粒程度の採卵が可能になった。経産魚の死亡が30%ぐらいあって、その飼育と病気の問題が今後に残されている。大口養魚場では初産の一年魚を特に大きくして採卵することがいまのところ安全で、経済的であるように考えている。そのために必要な、大口養魚場で育った親の子供は、親になったとき、優良なのかどうか、銀毛の出現割合、優良および目的別の親魚の分離、淘汰について少ししらべている。

1-2 採卵，ふ化

採卵期と発眼，発眼率，ふ化，ふ化率の関係をしらべ80%以上の発眼率をうるための方法を検討し，器具，殺菌，およびふ化管理の改良を考えている。

1-3 稚魚養成

飼育管理法と病気の予防，治療について検討している。

2 ヤマメの増殖研究

0年魚について以下の項目について調査，試験し，ひきつづきそれら1年魚とふ化稚魚について調査，試験飼育をつづけている。

- (1) ふ化，奇形，浮上と餌付け。
- (2) 0年魚の飼育（成長，生残，餌料試験，他）
- (3) 0年魚の採卵
 - 採卵可能魚出現率 ○ 採精可能魚出現率 ○ 成熟割合 ○ 生残 ○ 体長と体重 ○ 体重と採卵数および孕卵数 ○ 体重と採卵重量および孕卵重量 ○ 体重と発眼卵径 ○ 体重と発眼卵重 ○ 採精量 ○ 市販ホルモン剤，脳下垂体を使用した成熟予備テスト
- (4) 0年魚卵の発眼，ふ化，奇形，浮上と餌付け，生残
- (5) ヤマメ，ニジマス交雑種の発眼，ふ化奇形，浮上と餌付け，生残
- (6) 採卵，採精後，冬期の親魚の飼育（成長，生残，餌料試験）
- (7) 食味試験